

普及活動情勢報告（令和５年１１月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

「れいほく八菜」を通じて地域の農業を学ぼう ～小学校で野菜出前授業～



いかに分かりやすく伝えるか、工夫を凝らす普及職員

10月13日、本山町立吉野小学校でJAと普及所職員が講師となり、3年生から5年生までの計6名を対象に野菜出前授業を行いました。この取組は農林業関係機関や団体等で組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」が管内の小学生に地域の農業に関心をもっていただくことを目的に実施しています。

授業では普及所からクイズも交えながらGAPや環境保全型農業で取り組む「れいほく八菜」の栽培について紹介しました。子供たちは天敵昆虫の画像を熱心に見入り、「米ナスと普通のナスでは育て方は違う？」「農業で一番大変なことは何？」「美味しい野菜の食べ方は？」等、沢山の質問が出ました。

今後も普及所は、農業部会の一員として、地域農業への理解と関心を高める活動に取り組んでいきます。

他産地の取り組みを学ぶ ～ミニトマト部会広島視察研修～



選別方法を意見交換する参加者

10月26日、27日、JA高知県れいほく園芸部ミニトマト部会は、広島県のミニトマト農園、JA選果場、広島県立総合技術研究所、農業技術センターを視察し、生産者4名が参加しました。

ミニトマト農園では夏秋期2期作栽培について調査し、選果場では自動選別機について情報収集しました。普及所は、嶺北地域での栽培に必要な情報が得られるよう質疑を誘導しました。

生産者からは「2期作栽培の具体的な方法が分かった」「高温障害の対策について情報が得られて良かった」などの声が聞かれました。

今後も普及所は、ミニトマトの生産拡大に向けて、JAと連携して取組を支援していきます。

登録更新を目指して ～高知県GAP第三者確認制度現地調査～



実施状況を確認中

JA高知県れいほく園芸部は令和元年度から高知県GAP第三者確認制度による団体登録をうけています。11月15日、今年度の登録更新のための現地調査が農家ほ場9か所、出荷場及びJA事務局で行われました。

普及所は団体事務局であるJAを支援し日々のGAP指導を続けるとともに、調査に向け日程調整等の準備をしてきました。

調査の中では、農家から「点検シートを記入する度にできていないことや直すべきことが見付き役立っている」という声が聞かれ、GAPの取組が日々の改善に繋がっていることが、確認できました。

今後も普及所は、GAPの取組の向上を目指し、JAと連携して活動が続けます。

守るべき農地はどこ？どうやって守る？

～地域計画策定に向けた集落座談会（上地藏寺地区）開催を支援～



残したい農地はどこ？
意見を出し合う参加者ら

11月15日、土佐町の地域計画策定に向けた地域での座談会が旧JA土佐れいほく地藏寺支所で中山間地域直接支払集落協定「上地藏寺」役員6名、町、JA、普及所職員ら計15名が参加し開催されました。

参加者からは「国道沿いの農地は守りたい」「鳥獣害対策が必要」「狭小・棚田での水稻経営は不採算、少しでも個人負担を減らすため農業機械の共同利用を進めたい」等の意見が出されました。

普及所は、座談会で使用する資料や会の進め方について町と事前打ち合わせするとともに、会では担い手支援取組の紹介や集落活動センターとの連携や直払協定の広域化等を助言しました。

今後も普及所は、町の地域計画策定に向けた取組を支援していきます。